unicef

ユニセフ兵庫ニュース

Wish

世界の子どもたちのために

vol.80
2026年9月号

ユニセフのつどいの会場でラッパーISSHINさんとキッズダンサーたち

CONTENTS

特集 EVENT REPORT
2-5 第24回 ユニセフのつどい
2026 ユニセフセミナー「子どもの権利を考える」

6-7 活動ファイル
2026年4月～8月

8 お知らせ

特集 1

EVENT REPORT

第24回 ユニセフのつどい

Unicef Festival

世界のともだちと
心をつなごう

ユニセフのつどいは、世界の子どもたちの未来を考える人たちが集まって心を寄せ合う兵庫県ユニセフ協会のお祭りです。
今年はトークもライブもブースもみんなで一緒に「子どもの権利」を考える一日になりました。つどいの様子をお届けします。

Data イベントデータ

日　時　3月7日（土）
会　場　コレルせいぶんホール（神戸市東灘区）
参加者　225人
主　催　兵庫県ユニセフ協会
協　賛　（公財）神戸YMCA、（公財）神戸YWCA
後　援　兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、（公財）兵庫県国際交流協会、神戸市教職員組合、JICA関西、（一社）兵庫県子ども会連合会、生活協同組合コープこうべ

出展団体（順不同）

- NPO法人ミャンマー KOBE
- （株）バオバブ
- NPO法人ルワンダの教育を考える会
- 認定NPO法人FutureCode学生部 BYCS
- NPO法人ボレロ
- NPO法人せいぼじゃぱん
- NGOネパール虹の家
- 架け箸
- チームやんだくない
- （一社）グローバル学び舎3L（ミエル）
- YELEKOBA
- en with momo
- 石光商事㈱
- （社福）神戸いのちの電話

プログラム

■ワールドマーケット

■オープニング
朗読「子どもの権利ってなぁに」
ユニーズ（兵庫県ユニセフ協会学生グループ）

■募金贈呈式
2025年度兵庫県ユニセフ協会を通じて寄せられた募金総額は37,153,526円に上がりました。外国コインでもご協力いただきました。ありがとうございました。
募金贈呈式参加団体
兵庫県立神戸学園都市高等学校・伊川谷高等学校ボランティア部、兵庫県立大学S＆I club、生活協同組合コープこうべ、コープこうべユニオン

■講演会
「みんなで考えよう！子どもの権利」
講師　大谷美紀子さん

■トークセッション
大谷美紀子さん、大人（進行役）、子ども若者4人（中学生、高校生、大学生、大学院生各1人）

■SDGs人形劇
「西区竹取物語」
兵庫県立神戸学園都市高等学校・伊川谷高等学校ボランティア部

■ライブ
「なぁ大人、聞いてんか」
MC ISSHINさん、DJ PADDYさん、協力：BON the family、戎康弘さん（NPO法人ひと・コネクト兵庫）

LECTURE

みんなで考えよう！子どもの権利

すべての子どもの命と権利を守るために活動しているユニセフ。一方、国連子どもの権利委員会は、加盟国の条約実施状況を観察、評価、助言する機関です。元国連子どもの権利委員会委員長で日本ユニセフ協会理事の大谷さんと一緒に「子どもの権利」について考えました。

講演会は「子どもが権利を持つってどういうこと?」という素朴な疑問から始まりました。

子どもの権利とは特別な権利ではなく、一人の人間に備わる「人権」そのものです。かつて子どもは、未熟ゆえに大人が守らなければならない「対象」とされてきました。しかし1989年に国連総会で採択された「子どもの権利条約」では、それまでの考え方が大きく変わりました。子どもを「権利の主体」と打ち出したのです。

留意点は「子どもは大人と同じではない」ということです。生まれたばかりの子どもが、命を守られ、日々成長し、脳や精神面でも発達し続け、18歳になり社会に出ていくと責任もついていきます。大切なのは、子どもの成長に合わせて「保護」段階から少しずつ手を放して「支援」の段階へと関わり方を変えていくこと。子どもに合わせた保護と支援のバランスが大事です。

また、条約全体を理解する上で最も大切な柱は「子どもの最善の利益」と「意見を聴かれる権利」です。子どもに関することを決める時、大人は子どもの最善の利益が何かを一番大事にして決めてください。その最善を導き出すために、子どもの意見をしっかり聴いてくださいということです。子どもが感じていることを丁寧に引き出し、丁寧に聞き取ることが求められています。

最後に大谷さんは、「子どもの時から『自分は大切に扱われている、意見を聴いてもらえ、意見が違う時はきちんと説明もしてくれる』と実感して育つことで社会は変わっていく。大人側の実践は決して容易ではないが、お互いに努力をし続けていくことが、本当に社会を変えていくと思っています」と結ばれました。

大谷 美紀子さん
弁護士、国連子どもの権利委員会元委員長、(公財) 日本ユニセフ協会理事

特集
EVENT REPORT 2

2026 ユニセフセミナー

ユニセフセミナーでは3回シリーズで「子どもの権利」を考えました。

山本 真理子さん
国際人道法研究者、ジャーナリスト。学生時代に武器の規制や国際刑法を知り、旧ユーゴスラビア紛争中に起きたジェノサイドの取材に携わって以来、国際人道法について独自の研究と発信をしている。

今井 直人さん
NPO 法人 Dive in！ 代表理事。尼崎市立ユース交流センターでユースワーカーとして勤務後、生まれ育った神戸市長田区でユースセンター設立にむけて活動している。

みんなで考えよう！子どもの権利
DISCUSSION

トークセッションでは、4人の学生パネラーの「違和感＝なんでやねん」に対し、進行役は親・教師の視点で意見を述べ、大谷さんは「子どもの権利」の観点から回答。熱いセッションとなりました。

短い給食時間

中学生パネラーは15～20分という給食時間の短さを訴えました。進行役は、授業時間や給食に関する様々な事情を説明。大谷さんからは、子どもの健康や成長という「最善の利益」を最優先すべきではと社会のあり方を問い直しました。

未成年者の選挙運動禁止と18歳の壁

高校生パネラーは、選挙運動禁止によりSNSのリツイートさえ刑罰対象となる現状を、「表現の自由の侵害」だと批判。大谷さんは、「保護」という名目で子どもの権利が奪われていると指摘。世界では16歳から選挙権を持つ国もあり、日本は国連からも改善を求められていると説明しました。また、大学生パネラーは18歳になった途端に契約等の自己責任を問われる「大人扱い」への戸惑いを吐露。大谷さんは、18歳は単なる区切り、10歳頃から自立に向けた「支援」へ段階的に移行する助走期間の必要性を説きました。

保育現場の板挟み

保育士経験のある大学院生パネラーは、ほぼ1週間保育所に通う子どもたちの負担について、親御さんの事情と子どもの最善の利益を優先したい思いの板挟みの苦しみを報告。大谷さんは保育士個人が背負うのではなく、親世代を支援する社会的仕組みが別途必要だと指摘しました。

大人が子どもの声を聴き、自分ごととして応援していく

最後に大谷さんは、選挙権のない子どもたちの声を政治に届けるために、大人が子どもの声を聴き、自分事として応援していく重要性を語り、セッションを締めくくりました。

ユニセフセミナー②
心のインテリジェンスでつながる ～「共に守り合う」子どもの権利条約と国際人道法の基層～

Data イベントデータ

日　時　4月25日（土）
会　場　神戸市教育会館
参加者　57人
後　援　神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第３地区本部

今、世界では、国家と国家の法としての国際法が機能せず、歯止めをかけるべき国や組織の指導者の知性と品格も失われて戦争犯罪が当たり前のように繰り返されています。また、ミリテインメント（ミリタリーとエンターテインメントを合わせた造語）が進んでゲームと現実の区別が曖昧になり、戦争やひとの苦しみに対して社会が鈍感になってきています。

近現代においても、普通の人間が、自らの思考を放棄して、命ぜられた職務を遂行したことによって数々の集団殺害が起きています。植民地主義や単一民族主義による虐殺などもひとを否定する人道に対する罪であり、それらのことの重大さに見合う救済はありません。赤十字国際委員会は世代をまたぐトラウマを防ぐため、戦争犠牲者の家族を守ることも使命の一つとしています。２０２５年10月、「強い国家の指導者が人道法を無視し不誠実な解釈をして犯罪を繰り返している」と異例の強いメッセージを出しています。

国際人道法は戦時に「ひとをひととして守る」法です。一方子どもの権利条約は、ひとが最初に体験する社会（家族）の中で互いの大切さを確認し、一度しかない子ども時代を守り、子どもに最善のものを与えることを定めています。これは、これまでの悲惨な戦争の教訓から定められたいくつもの「人間尊重の法」の中心となり得る、無限の可能性を持った法です。そしてどちらもひととしての権利を守り、共に生きるための法です。

平時からひとの尊厳を自分事として捉え、心のインテリジェンス（知性・見識）をもってつながることでより良い平和な世界がつくられます。ＡＩ時代にひととしての気付きと行動ができるように教育することや人間尊重の法を守るために対話を続けていくこと、そのために不断の努力を注ぐのが私たちにできるレジスタンス、と山本さんは話しました。

ユニセフセミナー③
子どもの権利と余暇 ～ユースワーカーが考える幸せに生きる時間～

Data イベントデータ

日　時　6月27日（土）
会　場　神戸市教育会館
参加者　47人
後　援　神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第３地区本部

今井さんは、中高生を中心とした若者たちと信頼関係を築きながら、悩み相談やプロジェクトの伴走を行うユースワーカーです。

きっかけは東日本大震災。高校の環境防災科に通っていた今井さんは3年生の春、支援活動で宮城県に行きました。被災したおばあちゃんから助けられなかった友達や小さな子の分まで生きるという話を聞き、己の生きている意義や目的などを深く考え始めました。

大学に進み、尼崎市でのユースワーカーの仕事を経て、地元神戸市でも若者が集える場所をつくりたいと実家の一部をＤＩＹしました。ＮＰＯ法人Ｄｉｖｅｉｎ!を立ち上げ、全ての若者が納得感を持って生きられる社会をビジョンに、自由に過ごせるユースセンターづくりや地域のイベントへの企画参加、学校での探求学習のコーディネートなど多様な活動を通し、若者が主役になれる地域づくりをしています。

子どもの権利条約の中で今井さんが大切にしているのは、子どもの心の声を聞くことです。第31条には、休息と余暇、遊びなどの権利が定められています。日本の子どもたちは学校、家、塾、習い事など大人が決めたルールと時間、期待の中で忙しくしています。余暇は誰かに決められた時間ではなく自分で使い方を決め人生を選び始める時間です。邪魔をするのは大人のまなざし。子どもはまだできない、こうなってほしいという思いが過干渉や過保護などを生み、子どもの余暇を奪います。ユースセンターは学校でも家でもない、何をしてもいいオープンな場です。期待せず信じ抜くことや存在の肯定などを大切にしています。自己実現・自分らしさ・人とのつながり・達観感で感じることのできる幸福と、体験から考え学ぶ成長を若者と共に創る取り組みをしています。

ユースワーカーやユースセンターを広く知ってもらい、若者が納得感を持って生きられる社会をつくりたい。今井さんの願いです。

2 トライやるウィーク

日　時　2026年6月8日（月）～12日（金）
参加者　神戸市立本庄中学校　4人

ユニセフのことと今の世界の現状、子どもたちに必要なことを知ったから、募金活動の時に大きな声を出せた。この僕たちの努力が、誰かを助けたり、誰かの命を繋げていたなら、とてもいいことをしたと思う。たくさんのいろんな世代の人が募金をしてくれて、これだけの人が世界の問題や子どもたちに対して考えてくれていると分かり、とても嬉しかった。世界からみて当たり前ではない環境に感謝して、これからの人生に活かしていきたいと思った。（参加生徒の感想から）

3 ユニセフ全国協定地域組織学習講師研修会

日　時　2026年6月19日（金）
会　場　ユニセフハウス（東京都港区）／オンライン

（公財）日本ユニセフ協会は、ユニセフ学習会講師として活動するボランティアを対象に毎年研修会をおこなっています。はじめに、学習講師として活動するにあたって起こりうるリスクへの対応・予防策について説明があり、子どもたちのためのユニセフ活動で子どもを傷つけることがあってはいけないという当然で大切なことを再確認。インターンが実演した「ユニセフ教室」では、小学生として聞く立場、講師をする時と重ねて学ぶことができました。今後の活動にいかします。（参加者感想　森畑、上田）

4 啓発活動　マリールイズさん講演会 平和・教育・いのちの大切さを学ぶ

講　師　永遠瑠マリールイズさん
（龍谷大学短期大学部客員教授）
日　時　2026年7月9日（木）
会　場　コープ北口食彩館　組合員集会室（西宮市）
参加者　37人
共　催　コープこうべ第2地区本部

ルワンダ大虐殺を奇跡的に生き延び日本に来たマリールイズさんから、平和であること、命、教育の大切さを聞きました。なお7月8日（水）、尼崎朝鮮初中級学校でも講演会を開催、中学生、地域の方々など70名が参加しました。

Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴
2026年4月～8月

活動一覧 Activities List

学習会一覧

（0）オンライン開催

月日	訪問先	対象	人数
4月12日	ボーイスカウト姫路第21団（姫路市）	小学生	65
5月28日	コープこうべ第2地区本部（西宮市）	大人、中学生	8
7月 8日	加古川コープ委員会（加古川市）	大人	8
7月22日	神戸市立東落合中学校教職員研修（神戸市須磨区）	大人	60
8月 7日	小野市社会福祉協議会（小野市）	小学生	20

地域活動一覧

＊ブース出展

月日	イベント名	
4月25日	ユニセフセミナー②心のインテリジェンスでつながる～「共に守り合う」子どもの権利条約と国際人道法の基層（神戸市中央区）	
5月30日	国際理解講座①2025年夏、中東パレスチナのものづくりの現場を訪ねて～ヨルダン川西岸地区に暮らし続けること～（神戸市中央区）	
6月14日	たまろっとフェスタ（神戸市西区）	＊
6月20日	学生ボランティアユニーズ企画　朝日新聞記者が語る「中東取材で見えてきたもの」オンライン報告会（0）	
6月27日	ユニセフセミナー③子どもの権利と余暇～ユースワーカーが考える幸せに生きる時間～（神戸市中央区）	
7月8日、9日	啓発活動「永遠瑠マリールイズさん講演会」（尼崎市、西宮市）	
7月20日	まちのZINEフェス（神戸市長田区）	＊
7月25日	国際理解講座②最新映像でみる戦火のウクライナ子どもたちと市民の今（神戸市中央区）	
7月25日	兵庫県立図書館まつり（明石市）	＊
8月～	兵庫県立図書館ユニセフパネル展「ユニセフってなあに」（明石市）	

募金一覧

2026年2月～6月

学校・団体名
コープこうべユニオン、兵庫県立大学学生サークルS&I Club、蘭室友の会、湊ハマ㈱、生活協同組合コープこうべ、神戸学園都市高等学校・伊川谷高等学校ボランティア部、大屋小学校児童会、湊ハマ㈱、清泉中学校、西宮中央教会日曜学校、㈲フクオ、コープ魚住子育てひろば

ご協力ありがとうございました。（兵庫県ユニセフ協会関係分　敬称略、順不同）

1 ユニセフボランティア学習会

日　時　2026年3月28日（土）
会　場　コレルせいぶん　会議室
講　師　杉山精一さん（関西学院大学非常勤講師）

杉山さんが各地の戦争博物館で考えたことを聞きました。

5 2026 国際理解講座①
2025 年夏、中東パレスチナのものづくりの現場を訪ねて
～ヨルダン川西岸地区に暮らし続けること～

講　師　髙橋智恵さん（ソーシャルブランド「架け箸」代表）
日　時　2026 年 5 月 30 日（土）
会　場　神戸市教育会館
参加者　93 人
後　援　神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第 3 地区本部

※この講座は公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金から助成を受け実施しました。

髙橋さんは大学生だった 2018 年にパレスチナのヨルダン川西岸地区で 1 か月ホームステイをして、現地の家族の一員として生活する経験をしました。卒業後はパレスチナに関わる仕事がしたいと、2020 年フェアトレードの個人事業「架け箸」を始めました。“ 素敵に国境はない ” というスローガンのもと、オリーブの木工品や一点物の布製品などの販売をしています。またパレスチナのファンを増やすべく、さまざまな場で情報発信をしています。

パレスチナ問題は、「土地なき民に民なき土地を」と先に住んでいたパレスチナ人をいないものとして計画的に排除してきた構造的な問題です。現在はイスラエルの支配がどんどん進み、自治区といっても自治権が弱く、入植者は何をしてもいいという意識による犯罪が多発しています。比較的安全な地域でも何をされるかわからないという不安の中で人々は生活しています。

2022 年に髙橋さんが訪ねた時と比べて、2025 年夏には不安定な情勢からくる経済と気持ちの落ち込みが感じられました。生まれた時から背負っている自分たちの立場を理解した上での達観からくる諦めなのか、身の安全のためなのか、人々は自分の考えをあまり口にしません。若者たちは仕事もなく、自治区を隔てる壁同様に精神的な壁を感じています。扱っている製品の生産者にも先の見えない不安があり、仕事を続けていくための心のケアが必要になっています。

白い石壁に鮮やかなブーゲンビリアの花咲くパレスチナ西岸の街角 ▶

生産団体スタッフからは「世界中の市民が心を寄せてくれていることに希望を感じ、継続的なサポートとパートナーシップに感謝しています」という声が届いています。関心を持って情報を得たり、パレスチナのものを身近に置くことなどでも私たちは連帯の意思を表すことができます。

畑では先祖代々オリーブを栽培し、人気の菓子店やカラフルな花のある街で暮らすパレスチナの人々が「人生をまっとうできるように」との髙橋さんの思いが伝わるお話でした。

6 2026 国際理解講座②最新映像でみる
戦火のウクライナ　子どもたちと市民の今

講　師　玉本英子さん（ジャーナリスト・アジアプレス所属）
日　時　2026 年 7 月 25 日（土）
会　場　神戸市教育会館ホール
参加者　76 人
後　援　神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第 3 地区本部

※この講座は公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金から助成を受け実施しました。

戦火に苦しむ子どもや女性に視点を当て取材を続ける玉本さんは、今年も3月から6月にかけてウクライナを訪れました。

ロシアによる全面侵攻から 4 年以上がたち、状況は厳しさを増しています。物価高の中での生活苦に加え、連日のように続くミサイルやドローン攻撃におびえ、互いの無事を確認しあう日々。取材も命がけです。

チョルノービル（チェルノブイリ）原発事故から 40 年。一部地域では今も放射線量が高く、30 キロ圏内の立ち入りは制限されています。玉本さんは今回、許可を得て原子力発電所を取材することができました。事故のあった 4 号機を覆うシェルターには、2025 年にロシア軍のドローンが衝突した跡も残っています。ウクライナには複数の原子力発電所があり、ザポリージャ原発は現在ロシアが占領しています。原子力施設への攻撃による放射能汚染への危惧が高まっています。

中部クリヴィー・リフの小学校では、日本の子どもたちから託されたウクライナ語のメッセージと、子どもの名前が書かれた折り鶴を一人ひとりに手渡しました。遠く離れた日本の子どもたちの思いに、現地の子どもたちは大きな感動を受けました。防空警報が鳴ると、その学校では子どもたちは地下避難所にある学年ごとの教室へ移動し、限られた空間で授業を続けています。6 年生の女の子の望みは平和な青い空。ウクライナの空は今、ミサイルやドローンが飛んでくる怖い空なのです。

人々だけではなく、犠牲となるのは動物も同じです。前線地域で置き去りにされるペットを助けるため、一時預かりや新たな飼い主探しなど、ドローン攻撃の危険の中で動物保護団体が活動を続けています。

支援も減少しています。避難したくても、高齢者にとってわずかな年金での借家生活は厳しく、前線近くなど危険な地域に残らざるを得ない人もいます。避難できた人たちも、仕事がない中での生活は依然として厳しい状況です。

戦争で犠牲になるのは、力を持たない市民や子ども、そして動物たちです。

ウクライナの昔からの別れ際の挨拶が心に響きます。

「あなたに平和な空を」

ユニセフ募金 *Donations For Unicef*

通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ベネズエラ地震緊急募金	ベネズエラ K1-280 兵庫	00190-5-31000
ガザ人道危機	ガザ K1-280 兵庫	00190-5-31000
ウクライナ	ウクライナ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000

＊共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
＊郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。

いつでも どこでも 気軽に募金

通信欄に兵庫県ユニセフ協会コード「K1-280」とご記入ください。

Wish vol.80 ユニセフ兵庫ニュース

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2026 年 9 月発行

発　行：兵庫県ユニセフ協会

住　所：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 2F

電　話：078-435-1605（平日 10:00 ～ 16:00）
ＦＡＸ：078-451-9830
E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで
https://unicef-hyogo.jp/
兵庫　ユニセフ　検索

Join Us 主催イベント

各日程等は変更になることがあります。詳細はホームページをご覧ください。

参加費無料

国際理解講座③「知ることからはじめよう～西アフリカ」（国際平和ウィーク×アフリカデートーク＆ライブ＆マルシェ）

日時　9 月 19 日（土）13:00 ～ 15:00
会場　玉津のつどい場たまろっと
講師　中須俊治さん（アフリカドッグス代表）
ミロゴベノワさん　勝間美由紀さん（伝統音楽奏者）
後援　神戸市教育委員会神戸市教職員組合
共催　コープこうべ第5地区本部
協力　NPO法人ひと・コネクト兵庫

9月21日は国連で制定された「国際平和デー」。今年は西アフリカのトーゴとブルキナファソについて、熱く語ります。目で耳でアフリカを感じ、平和について考えませんか。

2026 国際理解講座④ 分断の時代に、共感と対話を育む―ルワンダで学んできた大切なこと

日時　10 月 31 日（土）13:30 ～ 15:00
会場　神戸市教育会館
講師　佐々木和之さん（プロテスタント人文・社会科学大学教員）
定員　80 人
後援　神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第 3 地区本部

1994 年に起きたルワンダ大虐殺後の「癒しと和解の歩み」。佐々木さんが長年取り組んできた平和と和解の活動についてお話を聴きます。

2026 国際理解講座⑤ 場外乱闘の世界をどう生きるか

日時　11 月 14 日（土）13:30 ～ 15:30
会場　神戸市教育会館
講師　大津司郎さん（アフリカジャーナリスト）
甲斐信好さん（拓殖大学副学長）
定員　80 人
後援　神戸市教育委員会、神戸市教職員組合、コープこうべ第 3 地区本部

「世界はルールなき場外乱闘の時代に入ったのでは」と甲斐さん。長年アフリカを取材してきた大津さん、調査してきた甲斐さんと一緒に、日本は、私たちはどうすべきか、考えます。

※国際理解講座は、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金からの助成を受けて実施します。

参加申込みはホームページ上の申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ TEL 078-435-1605

News お知らせ

第48回ハンド・イン・ハンド募金活動

日時　12 月 19 日（土）11:00 ～ 12:00
会場　阪急西宮北口駅前、JR住吉シーア、JR元町大丸前、JR明石駅前、JR姫路駅前（予定）

第 25 回ユニセフのつどい

日時　2027 年 3 月 6 日（土）
会場　コレルせいぶんホール

兵庫県ユニセフ協会は 2027 年に設立 25 周年を迎えます。

Booth 出展参加

10 月 3 日（土）	地域つながるフォーラム 2026
10 月 24 日（土）	サニーフェスタ 2026
11 月 23 日（月）	神戸文学フェス

Volunteer
あなたもボランティア！

ボランティア募集中

「できる人が できる時に できることを」をモットーに子どもたちのための活動をしています。一緒にボランティアしませんか。

募集中！

ユニセフ ひょうご サポーター
賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支えてください。

日本ユニセフ協会 賛助会員
賛助会費の 50％が兵庫県ユニセフ協会の運営・活動費になります。